

科目区分：学校教育教員養成過程・教職科目 A
授業科目：初等理科 B
担当教員：中村依子
登録学生数：54 名

初等理科 B の授業評価・授業研究報告

理科教育講座 中村依子

1. 授業の概要

本授業は、1 回生後期に開講されている学校教育教員養成課程・特別支援教育教員養成課程の専門科目（小学校教員免許に必要な小学校教科科目）である。物理と生物に関する講義のオムニバス形式で行った。授業の目的として、以下の項目を設定した。

・ 教職に必須の教養として必要な理科の教科内容のうち、生物学と物理学分野の内容を学習し、自然の理解と科学的なものの考え方を身に付ける。

授業では、小学校教科書の動物に関する単元で学ぶ内容を概説し、教科書で扱われる実験器具や教材を実際に触れた。授業内容として、小学校教科書の学習内容で動物に関する以下の4つのテーマを設定した。

1. 昆虫の成長と体のつくり
2. 人の体のつくりと運動
3. 人と魚の発生
4. 人や動物の体のつくりと働き

魚の発生については、教科書で扱われているメダカ（ヒメダカ）の成体の雌雄の特徴と、卵から孵化までの各発生段階について説明した後、成体と各発生段階の初期胚を、実際に顕微鏡を用いて観察した。

到達目標は下記の2つを設定し、講義では、2年次以降の生物学に関する実習・実験を行うための基礎知識を得ることを目的とした。

【到達目標】

- ① 小学校理科の教科内容のうち物理学・生物学分野に関わる基礎事項を理解する。
- ② 学習した小学校理科の教科内容を児童に説明できる。

授業では生物学に関する知識と観察力を身につけることを重視した。関連するディプロマ・ポリシー（DP）は、以下の2つである。

- ① 教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）
- ② 教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。（技能・表現）

2. 授業の評価法

【授業アンケート】

授業の評価アンケートに関しては、「ディプロマ・ポリシーによる授業評価」を活用した。本アンケートは以下の質問で構成されている。

【質問】

- 1A この授業では教育に関する確かな知識を得ることができる（教育に関する確かな知識）
- 1B この授業では自分の専門分野の知識を得ることができる（自分の専門分野の知識）
- 2A この授業では教育をめぐるさまざまな現代的課題について理解することができる（教育をめぐる様々な現代的諸課題）
- 2B この授業では教育の現代的課題に対して適切な対応方法を考えることができる（教育の現代的課題への対応方法）
- 3A この授業では教育活動に取り組むために必要な技能を身につけることができる（教育活動に取り組むための技能）
- 3B この授業では教育活動に取り組むために必要な表現力を身につけることができる（教育活動に取り組むための表現力）
- 4A この授業では自己の学習課題を明確にすることができる（自己の学習課題の明確化）
- 4B この授業では理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる（理論と実践を結ぶ主体的学習）
- 5A この授業では専門的職業人としての使命感や責任感を身につけることができる（専門的職業人としての使命感や責任感の形成）
- 5B この授業では多世代にわたって対人関係を形成する力を身につけることができる（多世代にわ

たる対人関係形成力)

3. 授業評価結果

今回の授業アンケートを回答した学生の内訳は、学校教育教員養成過程 1 回生 32 名、2 回生 3 名、特別支援教育教員養成課程 1 回生 15 名、2 回生 3 名、芸術文化課程 1 回生 1 名であった。授業アンケートの結果は以下の通りである。

1A 教育に関する確かな知識

①とてもそう思う 12 名 ②ある程度そう思う 17 名 ③あまりそう思わない 2 名 ④ 授業の目標・内容がこの DP とは無関係である 0 名

1B 自分の専門分野の知識

①とてもそう思う 7 名 ②ある程度そう思う 14 名 ③あまりそう思わない 9 名 ④ 授業の目標・内容がこの DP とは無関係である 1 名

2A 教育をめぐる様々な現代的諸課題

①とてもそう思う 3 名 ②ある程度そう思う 8 名 ③あまりそう思わない 13 名 ④ 授業の目標・内容がこの DP とは無関係である 7 名

2B 教育の現代的課題への対応方法

①とてもそう思う 3 名 ②ある程度そう思う 9 名 ③あまりそう思わない 13 名 ④ 授業の目標・内容がこの DP とは無関係である 6 名

3A 教育活動に取り組むための技能

①とてもそう思う 12 名 ②ある程度そう思う 16 名 ③あまりそう思わない 3 名 ④ 授業の目標・内容がこの DP とは無関係である 0 名

3B 教育活動に取り組むための表現力

①とてもそう思う 4 名 ②ある程度そう思う 17 名 ③あまりそう思わない 9 名 ④ 授業の目標・内容がこの DP とは無関係である 1 名

4A 自己の学習課題の明確化

①とてもそう思う 8 名 ②ある程度そう思う 19 名 ③あまりそう思わない 4 名 ④ 授業の目標・内容がこの DP とは無関係である 0 名

4B 理論と実践を結ぶ主体的学習

①とてもそう思う 5 名 ②ある程度そう思う 16 名 ③あまりそう思わない 9 名 ④ 授業の目標・内容がこの DP とは無関係である 1 名

5A 専門的職業人としての使命／責任感

①とてもそう思う 4 名 ②ある程度そう思う 17 名 ③あまりそう思わない 9 名 ④ 授業の目標・内容がこの DP とは無関係である 1 名

5B 多世代にわたる対人関係形成力

①とてもそう思う 4 名 ②ある程度そう思う 6 名 ③あまりそう思わない 13 名 ④ 授業の目標・内容がこの DP とは無関係である 8 名

4. まとめ

本授業はオムニバス形式であるが、アンケートの結果を見ると、他の項目と比べて、1A 教育に関する確かな知識、3A 教育活動に取り組むための技能について、とてもそう思う、またはある程度そう思うと回答した学生が特に多かった。この結果は、生物学に関する知識と観察力を身につけることを重視した講義内容が多少反映されたためだと考えられる。また、上記の項目に続いて、4A 自己の学習課題の明確化が、とてもそう思う、ある程度そう思うと解答した学生が多かった。これは、理科以外を専門とする学生が多く、自分の専門科目以外の教科内容に関しても理解し教えなければいけないという小学校教員の、理科に関する知識・技能の必要性を実感した結果であると考えられる。

一方で、2A 教育をめぐる様々な現代的諸課題、2B 教育の現代的課題への対応方法については、あまりそう思わないと答えた学生が多く、講義では現代的課題について取り上げることを心掛けたと思う。また、授業時間外学習(自発)、自発的読書、自発的活動が 0 時間であった学生がかなり多かった。次年度は、自発的な学習を促せるような講義内容・課題を考えたい。